

会社の概況

商号 株式会社ミマキエンジニアリング  
 設立 1975年8月  
 資本金 43億5,746万円  
 事業内容 コンピュータ周辺機器及びソフトウェアの開発・製造・販売  
 従業員 連結1,986名/単体835名

役員一覧

代表取締役社長 池田 和明  
 専務取締役 竹内 和行  
 常務取締役 三宅 洋  
 取締役 羽場 康博  
 取締役 清水 浩司  
 取締役 牧野 成昭  
 取締役 古平 武史  
 社外取締役(常勤監査等委員) 善野 洋  
 取締役(監査等委員) 田中 規幸  
 社外取締役(監査等委員) 田中 誠  
 社外取締役(監査等委員) 荒井 寿光  
 社外取締役 蓑毛 誠子  
 社外取締役 山田 一郎

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

株主メモ

事業年度 4月1日から3月31日まで  
 定時株主総会 毎事業年度終了後3ヶ月以内  
 基準日 定時株主総会 3月31日  
 期末配当 3月31日  
 中間配当 9月30日  
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日  
 単元株式数 100株  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

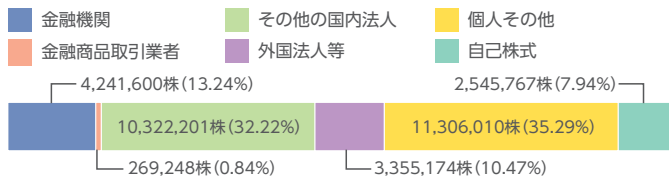
株式の状況

発行可能株式総数 128,160,000株  
 発行済株式の総数 32,040,000株  
 株主数 5,024名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
株式会社池田ホールディングス	4,497,200	15.25
有限会社田中企画	2,330,000	7.90
田中 規幸	2,028,900	6.88
東京中小企業投資育成株式会社	1,524,000	5.17
ミマキエンジニアリング従業員持株会	1,486,500	5.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,383,300	4.69
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	1,304,800	4.42
株式会社八十二銀行	840,000	2.85
アデキパートナーズ株式会社	833,200	2.82
エプソンアヴァシス株式会社	720,000	2.44

所有者別状況



郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 公告方法 当社ホームページ(<https://ir.mimaki.com/>)に掲載いたします。ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。  
 上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部  
 証券コード 6638

(ご注意)

- 株主様の住所変更その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社のホームページでは、IR情報やプレスリリースなどの最新の情報に加え、当社の事業概要、製品、サービスをより深くご理解いただくためのコンテンツをご覧いただけます。ぜひアクセスしてください。



携帯電話やスマートフォンをお使いの方は右のQRコードからもアクセスできます。



アクセスはこちら <https://ir.mimaki.com/>

公式SNSはこちら

- Facebook <https://www.facebook.com/mimakiengineering/>
- YouTube <https://www.youtube.com/user/MimakiPR/videos>
- Instagram [https://www.instagram.com/mimaki\\_japan/](https://www.instagram.com/mimaki_japan/)

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



BUSINESS REPORT 2020.9

2021年3月期  
 第46期中間報告書  
 2020.4.1-2020.9.30



証券コード 6638

# 私たちは、独自のラスタ技術<sup>(インクジェット等)</sup>とベクター技術<sup>(カッティング等)</sup>を柱とした市場志向の製品開発により、デジタル・オンデマンド生産のマーケットリーダーを目指しています

## 経営ビジョン

- 1** 独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する「開発型企业」を目指します。
- 2** 顧客に満足いただける製品を素早く提供する小回りの利いた会社を目指します。
- 3** 市場に常に「新しさと違い」を提供するイノベーターを目指します。
- 4** 各人が持っている個性・能力を一杯発揮できる企業風土を目指します。

## ミマキが目指す組織と企業像

イノベーターの集団であり続けるために、そして各人が持っている個性、能力を一杯発揮し、マーケットの潜在ニーズを素早く捉え解決するために、当社では技術・営業・生産・管理・経営企画の5本部体制のもと、小集団によるグループ別独立採算制を追求するGIPS経営を行っています。

GIPS (Group Independent Profitability management System) では、各グループが明確な役割と責任を持ち、それぞれがあたかも町工場であるかのように自主的に活動します。

そして各グループの活動成果としての付加価値を明確にし、各グループにおいてリーダーを中心に自部門の採算向上を実現するため、各グループのメンバー全員が問題点を共有し、その解決にあたります。これを通し社員全員が経営に参加し、一人ひとりが採算意識を持ち、信頼をベースにした葡萄の房のような小さな果実の集合体にしていきたいと考えています。

代表取締役社長 池田 和明



## トータルソリューションの提供により、 導入から成果物の品質までサポート

当社グループは、産業用インクジェットプリンタ、カッティングプロッタ、インク等の開発・製造・販売・保守サービスを一貫して行う開発型企业です。独自のコア技術を駆使し、デジタルトランスフォーメーションのさらなる進展を推し進め、導入から成果物の品質までをサポートするソリューションプロバイダーとしての役割を担ってまいります。

### ソリューションプロバイダー

前工程・プリント/カット/コート・後工程の一貫システムによるトータルソリューションを提供



### 社会・顧客ニーズ

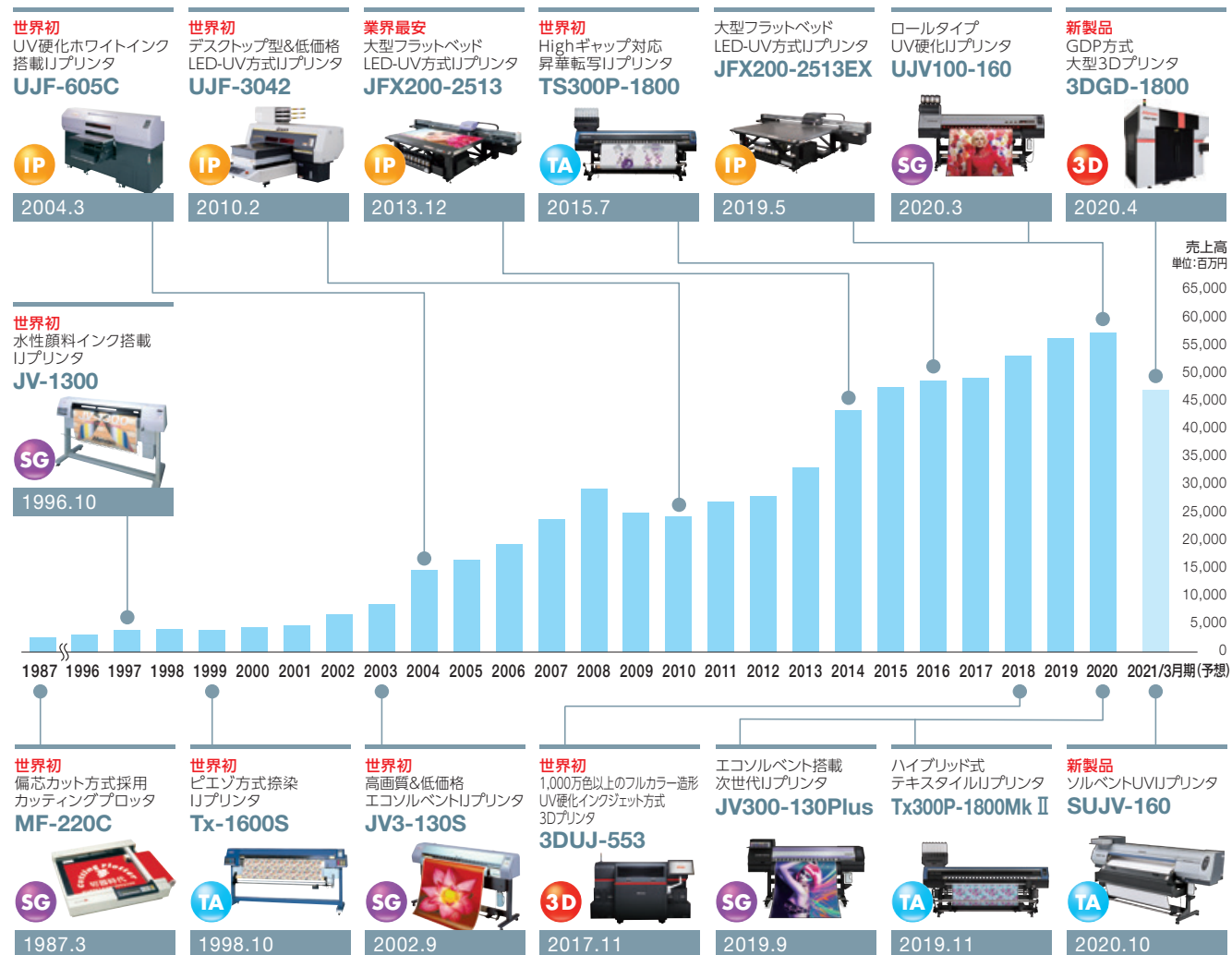
- 1 少量多品種生産
- 2 生産品の高付加価値化
- 3 ランニングコスト低減
- 4 リードタイム短縮
- 5 在庫レス
- 6 環境経営
- 7 無人化・省人化
- 8 eコマース環境構築 (小売業)



## Mimakiのコア技術

## Mimakiの歩みはイノベーションの歴史

デジタル・オンデマンド生産のマーケットリーダーとして、多様なニーズを迅速かつ的確に捉え、そこに狙いを絞った製品を素早く提供することで、今後も新たな市場と顧客を創出してまいります。



## 3つの販売市場に向けた製品提供とFA事業の展開

各市場のプレーヤーにとって最適な製品を常に提供し、各市場の拡大を推進。

SG

サイン  
グラフィックス  
Sign Graphics

大型ポスター、カーラッピング、のぼり旗、表示板といった広告・看板等、街を彩るビジネスシーンで活躍している当社の主力製品群。

活用事例



主なプリント素材

- ・塩ビシート
- ・バナーシート
- ・ウィンドウフィルムなど



TA

テキスタイル・  
アパレル  
Textile & Apparel

裁断・縫製加工前の生地や既製服などファストファッション・スポーツウェア業界のほか、ファニチャー業界で拡大している製品群。

活用事例



主なプリント素材

- ・ポリエステル
- ・レーヨン
- ・綿
- ・絹
- ・合成皮革など



IP

インダストリアル  
プロダクツ  
Industrial Products

自動車の計器パネルや家電類の操作パネル等の工業製品のほか、一般消費者向けのギフトやノベルティ、オーダーグッズ等の生産現場等で使用されている製品群。

活用事例



主なプリント素材

- ・プラスチック
- ・アクリル
- ・ガラス
- ・金属
- ・木材など



FA

ファクトリー  
オートメーション  
Factory Automation

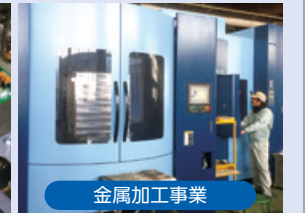
ベクター技術、メカトロニクス技術を基に5つの事業を展開。



FA装置事業



基板実装装置事業



金属加工事業



半導体製造装置事業



基板検査装置事業

# 新・中長期成長戦略 Mimaki V10

当社グループは、コロナ禍影響の長期化と市場ニーズや顧客志向の変化を踏まえ、売上高1,000億円を目標とした中長期ビジョン「M1000」を全面的に見直し、新たに2025年度に向け業績のV字回復を目指す新・中長期成長戦略「Mimaki V10」を定めました。

## 中長期ビジョンM1000 (2017年3月期～2020年3月期)の総括

### 成果

- 1 SG市場でシェアNo.1を獲得
- 2 強力なグローバル販売・サービスネットワークの構築
- 3 販売代理店・顧客基盤の確立
- 4 ソリューションプロバイダーとしての技術・ノウハウを蓄積

### 課題

- 1 インク品質のさらなる向上
- 2 在庫コントロール
- 3 製品開発スピードの向上とInnovation
- 4 新規市場開拓を牽引する新製品の投入



## Mimaki V10 基本ステートメント

ミマキならではの

前工程 ▶ プrint ▶ 後工程 ▶ の一貫システムや

製品によるソリューション提供で

産業印刷のデジタル・オンデマンド化を牽引する

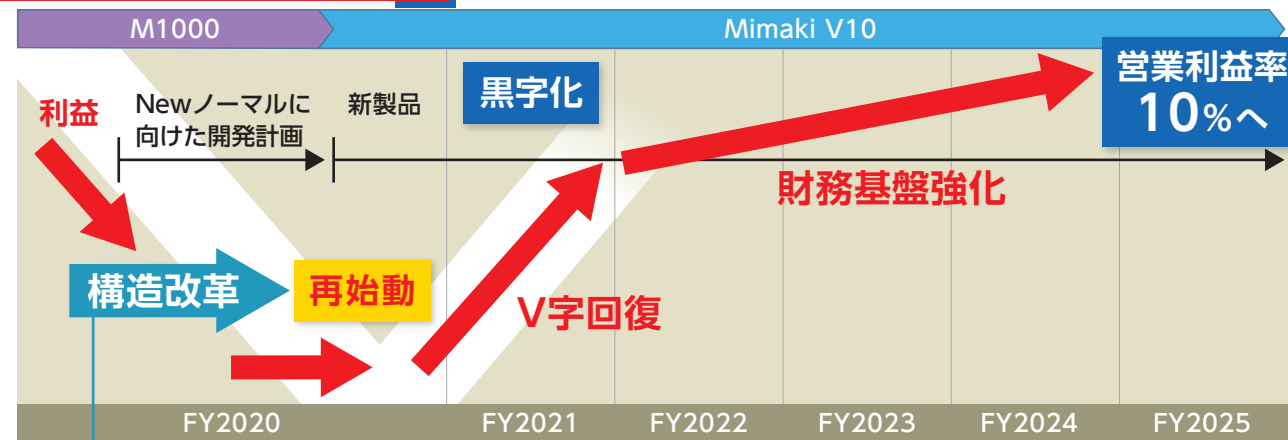


## Mimaki V10 経営方針

売上高成長を追求するだけでなく、高い収益を継続的に生み出すとともに、財務基盤を強化して、持続可能な成長に向けた強靱な企業基盤を構築したうえで、2025年度に営業利益率10%を達成する

- 1 収益性を重視し、2025年度において営業利益率10%、経常利益率8%を達成する
- 2 2020～2025年度の売上高平均成長率(CAGR)は、10%を目安とする
- 3 環境変化への対応力を確保するために、キャッシュ・コンバージョン・サイクルの改善を通じて財務基盤を強化する
- 4 製品開発で Innovation を起こし、顧客にとって価値のあるソリューションを提供し続ける
- 5 Mimaki V10 の達成に向け、ミマキグループが一丸となって取り組む組織風土を創り上げる

## Mimaki V10 で目指す姿



構造改革施策 → FY2019の80%の売上高(440億円)で利益が出る組織体制作り

- ▶ 適正在庫水準達成に向け、計画休業による生産調整と在庫削減施策(廃棄・評価減、販売価格対応等)を行い、在庫の圧縮を実施
- ▶ のれん等の減損損失等を計上し、資産の圧縮を実施
- ▶ 上記2点に必要な経費約15億円をFY2020予算に計上



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。今般の新型コロナウイルス感染症により影響を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。ここに、第46期第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の事業の状況について、ご報告申し上げます。

代表取締役社長 池田和明

### 当第2四半期連結累計期間の業績について

当第2四半期連結累計期間(以下、上期)の連結業績は、売上高208億62百万円(前年同期比23.8%減)、営業損失19億2百万円(前年同期は営業利益5億51百万円)と、減収減益となりました。

上期における世界経済は、第1四半期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、過去に類を見ない景気低迷に見舞われましたが、第2四半期に入り各国の景気回復に向けた政策の効果もあり、国や地域により濃淡はあるものの緩やかな回復傾向にあります。

このような環境の中、上期の市場別売上高は、全市場で減収となりました。SG市場向けは、全世界的に各種展示会・イベント等の相次ぐ中止や延期によるサインージプリント需要低迷等の影響を受け、大幅な減収となりましたが、第2四半期においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための注意喚起サインなどの新たな需要増加もあり、回復の傾向が表れています。IP市場向けは、世界的な消費低迷の影響により、工業製品やノベルティグッズ等のプリント需要が低迷し、大幅な減収となりましたが、第2四半期は顧客の需要回復に伴い、減収幅は改善いたしました。TA市場向けは、世界的な経済活動自粛や外出規制等の影響を受け、テキスタイル・アパレル市場の需要が縮小したことから、顧客の稼働率低迷により販売が減少し、大幅な減収となりました。FA事業は、事業全般に景気低迷の影響を受けながらも、自動車関連向けを中心に受注が堅調に推移した結果、前年同期並みの売上高を確保いたしました。

上期のエリア別売上高は、全エリアで減収となりました。日本では、第1四半期での落ち込み及び第2四半期の回復は、他エリアと比べ緩やかな状況となりました。北米及び欧州では、

第1四半期は設備投資の抑制や外出規制等による深刻な景気低迷の影響を大きく受けたものの、第2四半期は主要国を中心に前年同期を上回る売上高水準にまで回復いたしました。アジア・オセアニアでは、中国はコロナ禍影響からの回復が比較的早く販売減少幅は最小限に止まり、オーストラリアも好調に推移いたしましたが、この両国以外では、回復の足取りは鈍い状況が継続しています。

利益面では、売上高の大幅な減収により減益となりました。また、将来の業績のV字回復を実現するために、当社グループの事業体質強化を目的とした在庫削減及びのれん等の減損等の構造改革施策を、計画に沿って進めてまいりました。

### 2021年3月期の業績見通しについて

2021年3月期の連結業績予想は、売上高465億円(前期比16.3%減)、営業損失18億50百万円に上方修正いたしました。売上高につきましては、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、下期の世界経済見通しには依然不透明感が残るものの、緩やかな回復傾向が継続する見通しです。このような中、当社では業績のV字回復を目指す新たな中長期成長戦略を定めるとともに、下期においてSG、IP、TAの各市場向けに新規需要を開拓する新製品を順次投入してラインナップを拡充し、競争力の強化に努めてまいります。また、営業面でもオンラインの活用等による販売活動に積極的に取り組み、顧客の需要を着実に取り込んでまいります。以上の取り組みを踏まえ、下期の売上高は前年同期比で90%程度の水準まで回復する見通しであることから、上期の実績と併せ、通期売上高予想を上方修正いたしました。

利益面では、下期において、営業活動の本格化や新製品開発工数増加等により人件費や営業関連経費が増加し、上期比で固定費が増加する見込みです。一方で、上期で執行した構造改革に伴う経費負担が下期にはほぼ解消することに加え、固定費構造がスリム化した中での売上高回復の効果を見込むことから、前回予想では赤字を見込んでいた下期の営業利益以下の各段階利益が大幅に改善する見通しであるため、上期の実績と併せ、通期利益予想を上方修正いたしました。

### 株主様へのメッセージ

当社グループは、コロナ禍影響の長期化と市場ニーズや顧客志向の変化を踏まえ、売上高1,000億円を目標とした中長期ビジョン「M1000」を全面的に見直し、新たに2025年度に向け業績のV字回復を目指す中長期成長戦略「Mimaki V10」を定めました。具体的には、従来のように売上高成長を追求するだけでなく、高い収益を継続的に生み出すとともに、財務基盤を強化して強靱な企業基盤の構築を進め、2025年度に営業利益率10%を目指すものです。具体的な内容につきましては、本中間報告書のP7、8でご紹介していますので、ご確認ください。

なお、株主還元につきましては、足元の状況及び今後の見通しを踏まえ、2021年3月期中間配当は無配とさせていただきますが、先行き不透明感が強い中、期末配当予想は下期の業績動向を見極めたうえで改めてご案内させていただきます。未定といたします。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

国内拠点

**本社・牧家工場**  
長野県東御市滋野乙2182番地3

**加沢工場**  
長野県東御市加沢1333番地3

**長野開発センター**  
長野県長野市北長池520番地1

**八王子開発センター**  
東京都八王子市北野町593番地6

**JPデモセンター**  
東京都品川区西五反田7丁目22番地17  
TOCビル6階

**営業拠点**  
東京、大阪、札幌、仙台、長野、横浜、さいたま、西東京、北関東(宇都宮)、金沢、名古屋、京都、神戸、広島、四国(高松)、福岡

グループ  
子会社

○ 子会社の主要な支店

**大連アル法設計有限公司**  
(中国)

阿尔法自动化技术(深圳)有限公司  
(中国)

上海御牧貿易有限公司  
(中国)

御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司  
(中国)

アルファーデザイン株式会社  
(日本)

株式会社アルファシステムズ  
(日本)

株式会社砺波製作所  
(日本)

株式会社ミマキプレジジョン  
(日本)

株式会社グラフィッククリエーション  
(日本)

MIMAKI USA, INC.  
(アメリカ)

Mimaki Lithuania, UAB  
(リトアニア)

MIMAKI EUROPE B.V.  
(オランダ)

Mimaki Bompan Textile S.r.l  
(イタリア)

Mimaki La Meccanica S.p.A  
(イタリア)

Mimaki Deutschland GmbH  
(ドイツ)

MIMAKI THAILAND CO.,LTD.  
(タイ)

MIMAKI EURASIA DIGITAL BASKI TEKNOLOJILERI PAZARLAMA VE TICARET LIMITED SIRKETI  
(トルコ)

MIMAKI AUSTRALIA PTY LTD  
(オーストラリア)

MIMAKI INDIA PRIVATE LIMITED  
(インド)

MIMAKI SINGAPORE PTE. LTD.  
(シンガポール)

台湾御牧股份有限公司  
(台湾)

PT.MIMAKI INDONESIA  
(インドネシア)

MIMAKI BRASIL COMERCIO E IMPORTACAO LTDA  
(ブラジル)

沿革

- 1975年 8月 (有)ミマキエンジニアリング設立
- 1981年 5月 (株)ミマキエンジニアリングに改組
- 1983年 12月 OEM向けA2フラットベッドペンプロッタ RY-1003開発開始
- 1985年 2月 「北斎」の商標で、A2フラットペンプロッタ販売開始
- 1986年 3月 加沢工場操業開始
- 1995年 7月 台湾御牧股份有限公司設立
- 1999年 1月 ISO 9001認証(審査登録)
- 9月 MIMAKI USA設立

- 2003年 10月 長野開発センター開設
- 2004年 4月 (株)ミマキプレジジョン設立
- 4月 MIMAKI EUROPE設立
- 9月 長野県東御市に牧家工場取得
- 2005年 4月 テクニカルコールセンター開設
- 2006年 4月 (株)グラフィッククリエーションを子会社化
- 8月 本社を長野県東御市滋野乙に移転
- 2007年 3月 ジャスダック証券取引所上場
- 2008年 7月 御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司設立
- 7月 Mimaki Deutschlandを子会社化

- 2009年 1月 ISO14001認証(審査登録)
- 6月 上海御牧貿易有限公司設立
- 2010年 8月 平湖御牧貿易有限公司設立
- 2011年 11月 MIMAKI INDONESIA設立
- 2013年 4月 MIMAKI AUSTRALIA設立
- 4月 MIMAKI SINGAPORE設立
- 7月 MIMAKI INDIA設立
- 2015年 3月 東京証券取引所市場第一部に市場変更
- 5月 八王子開発センター開設
- 7月 滋野ショールームオープン

- 2016年 4月 MIMAKI EURASIA設立
- 7月 JPデモセンター開設
- 7月 } ラボセンター開設(TA・IP)
- 8月 }
- 10月 Mimaki La Meccanicaを子会社化
- 2017年 2月 Mimaki Lithuania設立
- 6月 Mimaki Bompan設立
- 2018年 10月 アルファーデザイン(株)を子会社化
- 11月 (株)楽日を子会社化
- 2019年 3月 MIMAKI THAILAND設立





SG

操作性・画質・速度・コストバランスに優れた「100series」2機種を全世界で発売

「100series (JV100-160/UJV100-160)」は、サイングラフィックス市場をリードしてきたミマキが、長年蓄積してきた「高画質」「高信頼性」「高生産性」の技術をベースに、新たに「高い操作性」をお客様にご提供する製品です。プリンタの操作に習熟していない方でも簡単にお使いいただける、機能・コストバランスに優れたエントリーモデルです。



**JV100-160 UJV100-160**

2020年3月発売 (地域限定)  
2020年12月発売予定 (全世界)

2020年12月発売予定

FA

当社会社アルファードesignより「DCF-605PU」を発売

従来、プリント基板への防湿剤コーティングは刷毛塗りやスプレー塗布といった手作業に頼っており、塗布膜厚のバラつきによる再塗布といった課題を抱えていました。当社独自の精密な位置決め機能により高精度なコーティングが実現でき、これまでの手作業工程を自動化、標準搭載のアプリケーションソフトにより多品種少量生産にも対応します。



**DCF-605PU**

2020年10月発売

TA

皮革・合皮の質感を活かす溶剤UVプリンタ「SUJV-160」を発売

本製品は、ワイドフォーマット溶剤UVインクジェットプリンタ「SUJV-160」と富士フイルム株式会社が開発した溶剤UVインク「SU200」で構成され、「SU200」インクは、高い柔軟性と耐久性を備え、従来技術では難しかった皮革・合皮の基材そのものの質感を活かした印刷を可能にしました。



**SUJV-160**

2020年10月発売

3D

小型フルカラー3Dプリンタのエントリーモデル「3DUJ-2207」を発売予定

「3DUJ-2207」はUV硬化インクジェット方式の1,000万色以上のフルカラー造形を実現する3Dプリンタで、一般的な石膏方式に比べて約2倍の高精細な色表現を実現します。本製品は従来製品と比較し小型設計で、本体を分解することなく搬入できるうえ、静音設計で脱臭機を備えているためオフィス環境への設置に最適です。



**3DUJ-2207**

2021年1月発売予定

当社は、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)で定めた17の目標のうち、インクジェット技術で7つの項目に貢献してまいります



▶ 当社グループは、サステナビリティ対応の一環として、資源循環型の経営・技術に鋭意取り組んでいます

これまでも独自のインクジェット技術で、社会・環境ニーズに貢献するデジタル・オンデマンドプリント事業の拡大を推進してまいりました。今後も、デジタルトランスフォーメーション(バリューチェーンを含めた新たな付加価値につながるデジタル化)を的確に捕捉し、さらに深化すると思われる無人化・省人化、高速化・高品質化、無水捺染等の高度な付加価値につながる社会・環境ニーズにいち早く対応できるよう取り組んでまいります。

▶ デジタル・オンデマンドプリントの推進で、持続可能な社会の実現へ

当社は、独自のラスタ技術とベクター技術を駆使して、デジタル・オンデマンドプリントのさらなる進展を推し進めてまいります。



節水

染色による淡水汚染をインクジェットプリントで解消、昇華転写プリントで節水を可能に



物流フローの削減

デジタル・オンデマンドプリントで物流フローを短縮



在庫ロスの減少

インクジェットプリントでロスを最小限に



生産設備の効率化

インクジェットプリントで環境に配慮した設備作りを可能に



環境に優しいインクの開発・製造

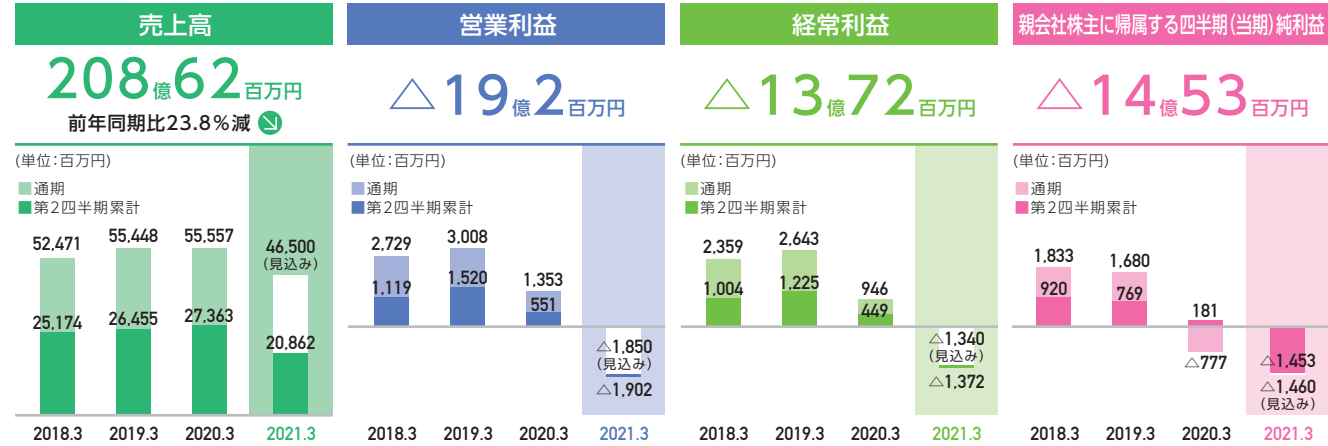
環境に優しく、オペレーターの健康負荷の軽減にも配慮したエコロジーインクを開発



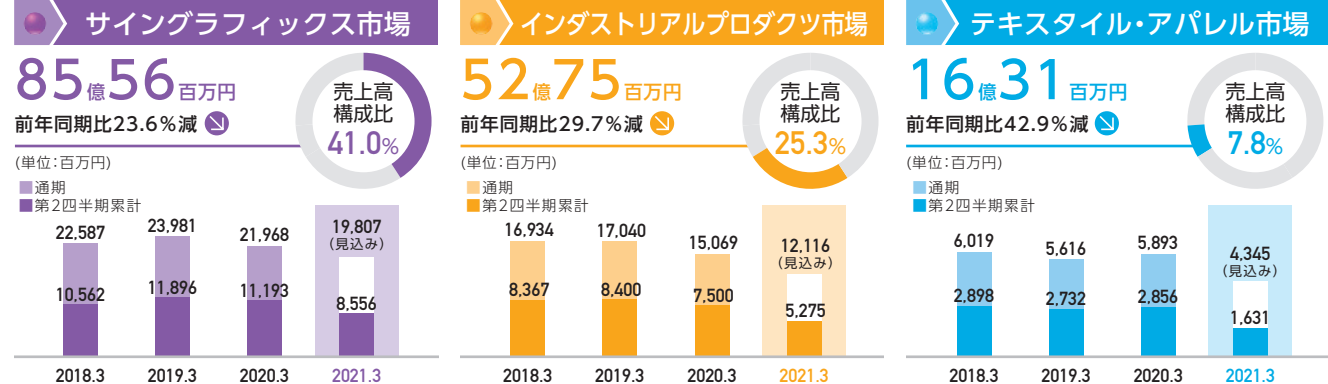
環境へ配慮したインクカートリッジ

使用済みインクカートリッジ類の無償回収・再利用、エコインクカートリッジの採用

連結業績ハイライト



市場別状況

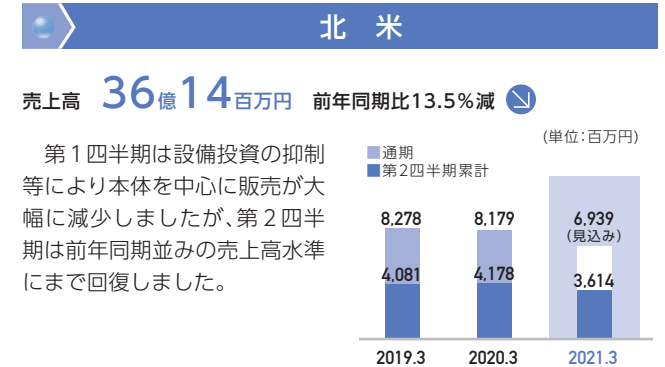
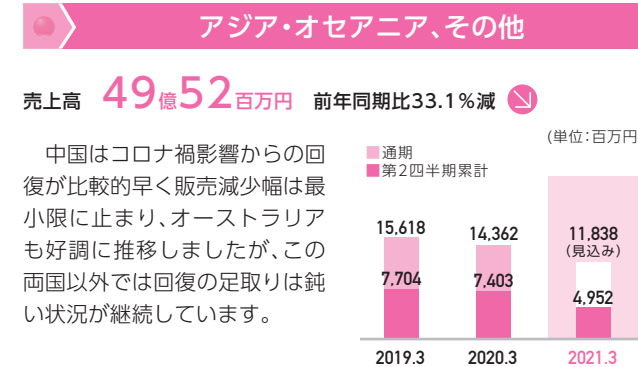
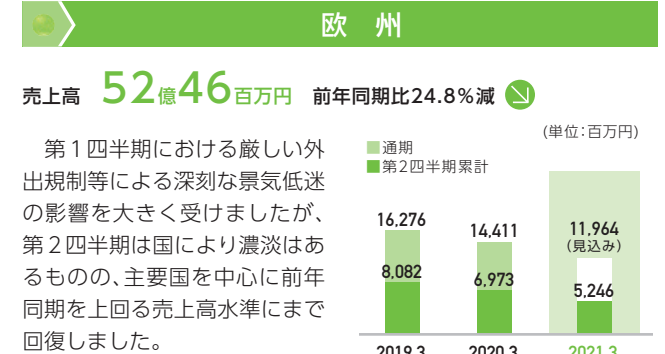
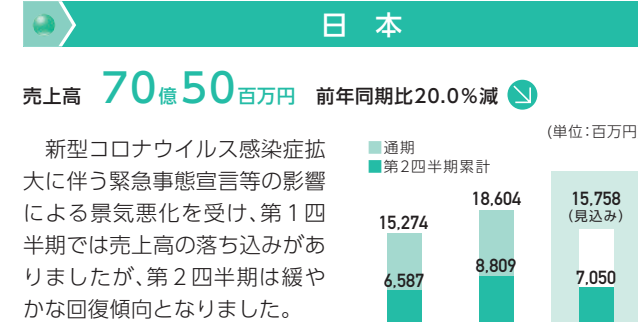


売上高は85億56百万円(前年同期比23.6%減)となりました。コロナ禍により全世界的に各種展示会・イベント等の相次ぐ中止や延期によるサイングラフィック需要低迷等の影響を受け、大幅な減収となりました。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための注意喚起サインなどの新たな需要増加もあり、第2四半期においては、回復の傾向が表れてまいりました。

売上高は52億75百万円(同29.7%減)となりました。世界的な消費低迷の影響により、工業製品やノベルティグッズ等のプリント需要が低迷し、大幅な減収となりましたが、第2四半期は顧客の需要回復に伴い、減収幅は改善いたしました。

売上高は16億31百万円(同42.9%減)となりました。世界的な経済活動自粛や外出規制等の影響を受け、テキスタイル・アパレル市場の需要が縮小したことから、顧客の稼働率低迷により本体・インクとも販売が減少し、大幅な減収となりました。なお、第2四半期は世界的な経済活動回復の動きを受け、徐々に改善の方向にあります。

エリア別状況



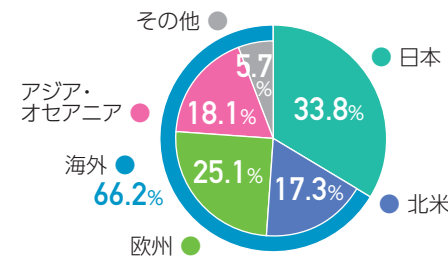
2021年3月期第2四半期累計実績

約150ヶ国のお客様に製品・サービスをご提供

連結海外売上高 138.12 億円

連結売上高に占める割合 66.2%

エリア別売上高構成比



品目別売上高構成比

